

職場における熱中症の最近の発生状況(茨城県内)

熱中症の発生状況(休業4日以上労働災害)

		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	計	
発生件数		2	(3) 24	14	9	(3) 12	(1) 30	13	10	(1) 11	27	(8) 152	
年齢別	～19歳			1	2		2			1	2	8	
	20～29歳	1		2	1	(1) 1	7	2	3	3	2	(1) 22	
	30～39歳	1	(2) 7	6	2	(1) 3	4	2		3	5	(3) 33	
	40～49歳		7	3	2	(1) 3	7	1	3	1	4	(1) 31	
	50～59歳		6	1	2		5	(1) 5	6	2		7	(1) 34
	60歳～		(1) 4	1				5	2	2	(1) 3	7	(2) 24
業種別	製造業	1	(1) 10	3	2	3	8	4	4	3	8	(1) 46	
	建設業	1	4	4	3	(2) 4	(1) 9	5	4	(1) 2	3	(4) 39	
	運送業		4	2	1		3	2		2	6	20	
	その他		(2) 6	5	3	(1) 5	10	2	2	4	10	(3) 47	
性別	男	2	(3) 22	13	9	(3) 9	(1) 24	13	8	(1) 8	24	(8) 132	
	女		2	1		3	6		2	3	3	20	

資料出所 労働者死傷病報告による なお、()内は死亡者数で内数

(1) 熱中症による発生件数の推移

職場での熱中症による死傷者数は、平成21年以降、平成26年の30人が最も多く、業種別では、製造業と建設業の2業種で全体の約6割(55.9%)を占めています。

死亡災害は、平成22年と平成25年に3人、平成26年と平成29年に1人発生しています。

月別でみると7～8月に多く発生しており、特に梅雨明け直後の暑さに慣れるまでの間は、十分に休憩を取りながら徐々に身体を慣らす(熱への順化)とともに、その後も暑さ指数に応じて、作業の中断、短縮などにより熱中症を予防しましょう。

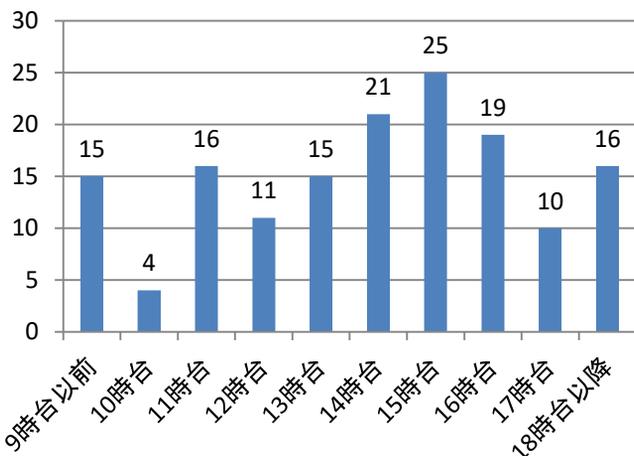
熱中症の発生件数の推移(休業4日以上労働災害)



(2) 時間帯別では、ほぼ平均的に発生していますが、15時台に多く発生しています。

また、日中の作業終了後に帰宅してから体調が悪化するケースも散見されますので、異常を感じたらすぐに病院へ受診するか、救急隊を要請しましょう。

時間帯別発生状況(H21年～H30年)



曜日別発生状況(H21年～H30年)

